

2 1 公益社団法人東京青年会議所

番号		項目	「東京都女性活躍推進計画」記載の内容	令和7年度取組実績
I ライフ・ワーク・バランスの実現と働く場における女性の活躍推進				
2 妊娠・出産・子育てに対する支援				
	69	両立支援のための環境整備	会員・局員に対する子育て支援を継続的に行います。	会員向け：産後による会費減額（経済的負担の軽減） 局員向け：育休制度の運用、有給休暇の取得促進（労働環境の整備）等継続的に行った。
II 男女平等参画に向けたマインドチェンジ				
1 生活と仕事における意識改革				
(1) 「働く」の意識改革				
	117	働く場における男女平等参画の促進	企業内で可能な行動 経営者自身が考え、経営者自身で行動できる当団体の特性を活用して、各企業に対して、子供を育てながら仕事が継続できるように様々な提案をしていきます。	未実施
(2) 男性の家事・育児参画に向けた意識改革				
	151	周知・普及啓発	女性が結婚し、子供を産み育てながら、社会に参画できる、仕事が継続できる、社会のシステムが必要で す。そのために意識の改革を行っていきます。 (1) 家庭内意識の変革 家庭内で育児、家事をシェアするという文化をつくり ます。特に夫の協力を働きかけます。 (2) 地域内意識の変革 各地区において、子供と教育について議論し、その重要性を発信します。併せて、父親への働きかけを行います。 (3) 企業内で可能な行動 経営者自身が考え、経営者自身で行動できる当団体の特性を活用して、各企業に対して、子供を育てながら仕事が継続できるように様々な提案をしていきます。	2025年7月27日（日）開催7月例会 事業目的：父親が日常的に母親の育児の話を積極的に聴き、子育てについて求められている行動を自分から起こせるようにする。という目的のもと例会を行った。 ◆企画1：THANKSアーチ&アンケートボード企画 形式：アーチ (狙い) 家庭内での感謝や困りごとを可視化し「子育ては社会全体で支えるもの」であることを表現することで共感の輪を広げる。また、父親が日常的に母親の育児の話を積極的に聴き求められている行動に気づかせる。 ◆企画2：【感謝の手紙企画】 形式：ブース (狙い) 父親が母親の育児の話を日常的に積極的に聴ききっかけを創出するために、家族の未来の姿や感謝の気持ちを手紙として言語化・共有する場を提供することで、家族の関係性や育児への主体的な関与に対する意識変容をおこす。事業後も夫婦の会話が続く仕組みを創る。 ◆企画3：【親子企画】 形式：ブース (狙い) パパと子どもが「一緒に作る」「一緒に遊ぶ」ことで親子のコミュニケーションを深めながら、育児参加をさせる。 ◆企画4【行政&東京都子育て支援ボード】 形式：出展ブース (狙い) 「子どもを産み育てなくなる社会」を実現するため、行政施策（社会が用意している支援制度）の存在と価値を正しく伝える。各区及び東京都が実施している子育て支援制度の具体的内容を可視化・案内することで、家庭が自分に合った支援を知り、気づきを得て、制度を前向きに活用するようになる。 ◆企画5ー1【基調講演】 (狙い) 「父親が育児において“聴く”ことの重要性」に気づき、自身の関わり方を見直す。 ◆企画5ー2【トークセッション】 (狙い) 夫婦で共に歩んでいく“チーム”になるには、子育てにおいて産前産後の不安や気持ちに耳を傾けることが信頼と安心につながることに気づき、自身のパートナーシップを見直す。 ◆企画5ー3【トークセッション】 (狙い) 参加者が夫婦の在り方や支え合いの重要性（聴く）に気づき、父親としての意識を育む。 【結論】 ◆企画5ー4【クロストーク】 (狙い) 父親が育児に関わる意味を深く理解し、社会全体がパパになる最初の一步を応援していることを実感することで、パパとしての意識と具体的な行動変容につなげる。 本例会の目的は、「父親が日常的に母親の話を聴き、自ら子育てに関わる行動を起こせるようにすること」であった。 したがって、本例会の成果は、「意識の変化」のみならず、「家庭内における行動変化の実現度」もあわせて測るべきものである。 アンケート結果では、参加者の92.7%が「夫婦で育児を考えるきっかけになった」と回答しており、父親の意識変容は一定の成果が確認された。 しかし、これは「気づき」の段階にとどまっており、目的として掲げた「行動」には必ずしも直結していない。 実際に「父親の行動が変わった」と母親が回答した割合は69.4%にとどまり、行動変容及びその継続性を確認するには不十分な結果であった。 このことから、本例会は父親の意識改革を着実に促したものの、最終目的である「行動変容の定着」には至らなかったと総括できる。

	番号	項目	「東京都女性活躍推進計画」記載の内容	令和7年度取組実績
--	----	----	--------------------	-----------

Ⅲ 多様な人々の安心な暮らしに向けた支援

4 障害者への支援				
	282	周知・普及啓発	障害者の労働・教育支援及びバリアフリーに対する運動など共生社会を目指した取組を継続的に行います。	2025年9月12日(金)開催9月例会 事業目的：一般市民において、共生社会を推進していく上で必要な考え方である「心のバリアフリー」や「障害の社会研」®といった言葉の認知向上を図る。という目的のもと例会を行った。 本例会を通じて、一般市民において誰しもが共生社会を作り出す当事者であるという意識が向上し、共生社会を推進していく上で必要な考え方である「心のバリアフリー」や「障害の社会研」®といった言葉の認知向上を図るという目的は下記の各数値からも達成出来たと評価できる。 企画1：共生社会に関するオプニングムービー (狙い) 障害当事者の実体験をもとにしたオプニングムービー動画を放映することで、全ての人々が幸福を享受できる社会という考え方の認知向上を図る。 ①障害の種別有無に関わらず、人々が助け合うことの重要性を感じましたか？ 評価7以上：95.1% 目標値：70% 企画2：開催趣旨説明、共生政策推進運動活動報告 (狙い) 開催趣旨及び推進運動の年間計画と成果の共有を通じ、本例会の目的である「心のバリアフリー」や「障害の社会研」®といった言葉と、その意味について認知向上を図る例会である印象付けを行う。 ②自身も共生社会の構築に携わる一員であるという理解を持つことができましたか？ 評価7以上：95.1% 目標値：70% 企画3：社会生活と障害についての体験談及びトークセッション (狙い) 障害当事者の実体験をもとにした体験談や当事者を取り囲む環境を学び、社会にある障壁についてや「障害の社会研」®の考え方を参加者に認知させることで、共生社会の概念を身近に感じてもらう。 ③障害は誰にでも関連性のあるもの、という当事者意識が高まり、自分事として捉えることが出来るようになりましたか？ 評価7以上：95.3% 目標値：70% 企画3：社会生活と障害についての体験談及びトークセッション (狙い) 障害当事者の実体験をもとにした体験談や当事者を取り囲む環境を学び、社会にある障壁についてや「障害の社会研」®の考え方を参加者に認知させることで、共生社会の概念を身近に感じてもらう。 ④障害当事者が日常生活で障壁を感じる原因は何だと思えますか？ 評価7以上：93.4% 目標値：70% 企画4：心のバリアフリー-好事例企業による共生社会と社会研®に関する発表 (狙い) 心のバリアフリーを推進する企業の取り組み事例を紹介することで、参加者が心のバリアフリーに関する理解を深めること。 ⑤本日の例会に参加して、心のバリアフリーという考え方に則り、あなたは今後どのような行動からまず始められそうだと思いますか？ 評価7以上：98.6% 目標値：70% 企画5：デフリンピックを通じて誰しもが挑戦できる社会に関するバレットセッション (狙い) デフリンピックに向けた想いや日常的な実体験をお話頂くことで、デフリンピックへの機運を高めると共に、障害の有無に関わらず人生の中で挑戦することの大切さを理解してもらうこと。 ⑥デフリンピックに関する理解が深まりましたか？ 評価7以上：96.2% 目標値：70%

	番号	項目	「東京都女性活躍推進計画」記載の内容	令和7年度取組実績
--	----	----	--------------------	-----------